

俳優 石上亮の大好きな宿題
『映画感想文』

第18回 冷たい熱帯魚
2011年4月22日

石上家で熱帯魚を飼い始めたのは高校生の時です。両親から許可が出て、ようやく念願叶ったぜ！という感じで。熱帯魚を飼う前は、近場の瀬戸川や大井川で捕まえた魚を飼っていました。それだけで十分楽しかったんですが、人間って貪欲な生き物なんですね。もっともっと色んな魚が欲しいってなってくる訳ですよ。見たこともない色や形をしたヤツを。それで熱帯魚屋さんに何度か偵察に行くうちに、オレの心を驚愕みにする FISH が現れました。アロワナです。観賞用の大型熱帯魚で、古代魚に近い雰囲気を持ち、その悠々と泳ぐ姿はオーラを放ちまくり。ただいきなり成魚のアロワナを飼う勇氣は無かったので、まずは稚魚を飼うところからスタートする事に決めました。ちなみに当時の石上家には猫の先客が居ました。アメリカン・ショートヘアのウーちゃんです。

アロワナが出てくる映画・園子温監督作品『冷たい熱帯魚』を観ました。いや、アロワナが出てくるから観たってワケじゃあないんですけどね。あ、でもアロワナがストーリーに絡んでくるんで油断は出来ません。アロワナ恐るべしって感じで。さて本作の中身ですが、R18 指定の映画だけにかかなり過激な描写が続きます。最初はエーッ！っていう衝撃を受けましたが、しばらくするとその刺激に慣れ、本来の重厚なストーリーにグイグイ引き込まれていっちゃいました。まさに「猛毒エンターテインメント」を体感したというか。そう、エンターテインメントなんですよ。かなり笑いありの映画だと思います。とってもエログロなんですけどね。で、映画のストーリーはこんな感じです。小さな熱帯魚屋の店主・社本（吹越満）は、万引き事件を起こした自分の娘（梶原ひかり）を、同じく熱帯魚屋を営む村田（でんでん）に助けられる。村田は社本よりも全然大きな熱帯魚屋のオーナーで、その人懐っこい笑顔で社本を高級熱帯魚輸入ビジネスに誘う。妻（神楽坂恵）の勧めもあり、村田と関わることを決めた社本。村田の熱帯魚屋で働いて更生する道を選んだ社本の娘。そして妖艶な村田の妻（黒沢あすか）の存在。それぞれの思惑が交錯し、物語は思わぬ方向に進んでいきます。エログロで笑えるって奇妙な表現かもしれませんが、とにかく笑っちゃうもんだからしょうがない。何が笑えるって、特に村田役のでんでんさん。悲劇と喜劇がこうも紙一重なのかって思ってしまうほど、衝撃的なキャラクターです。観終わってからもしばらくその衝撃が残ります。『MAD 探偵 7人の容疑者』に続き、衝撃作が藤枝に上陸です。「用意は、いいか。」

石上家で飼い始めたアロワナは、ジョニー・トー映画に出てくる登場人物たちの様に、毎日シュリンプやアカムシを美味そうにガツガツ食いました。それに比例するようにどんどん成長して、20センチくらいにまでなったある日のことです。アロワナに全く興味を示さなかった猫のウーちゃんが、いきなりジャンプして水槽に飛び乗りました。気付いた瞬間は、時すでに遅し。アロワナは水槽の壁に激突してました。そう、アロワナは大きな音や人の動きに敏感に反応する魚なんです。激突のショックがあまりにも大きくて、しばらくしてアロワナは死んでしまいました。以後、この事件がトラウマになった石上家では、熱帯魚を飼うことはありませんでした。熱帯魚用の水槽は今も冷たいままです。「そういうことだ！よろしくな！！」